

【統一様式】

和水町立病院が担う 役割について

令和5年2月 国民健康保険 和水町立病院

1 現状と課題

【和水町立病院 病院理念】

●基本理念

「医療を通じて住民が安心して生活できる社会作りに貢献します」

●基本方針

- 一、患者さんの意思を尊重し、最善の医療を提供します。
- 一、職員の輪を尊び、チーム医療を推進します。
- 一、新しい知識を習得し、自己研鑽に努めます。

1 現状と課題

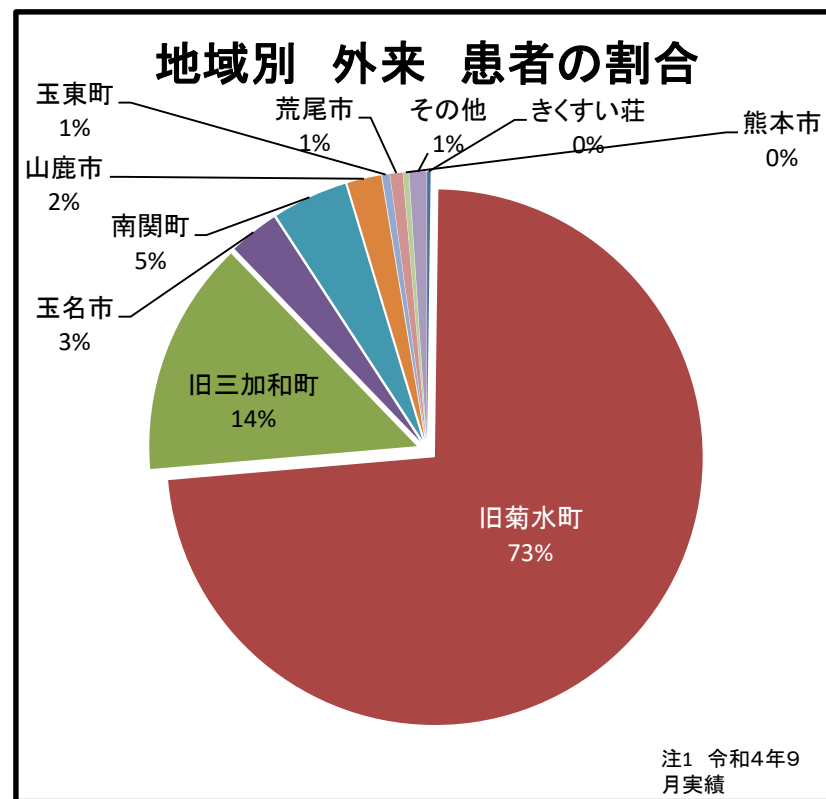
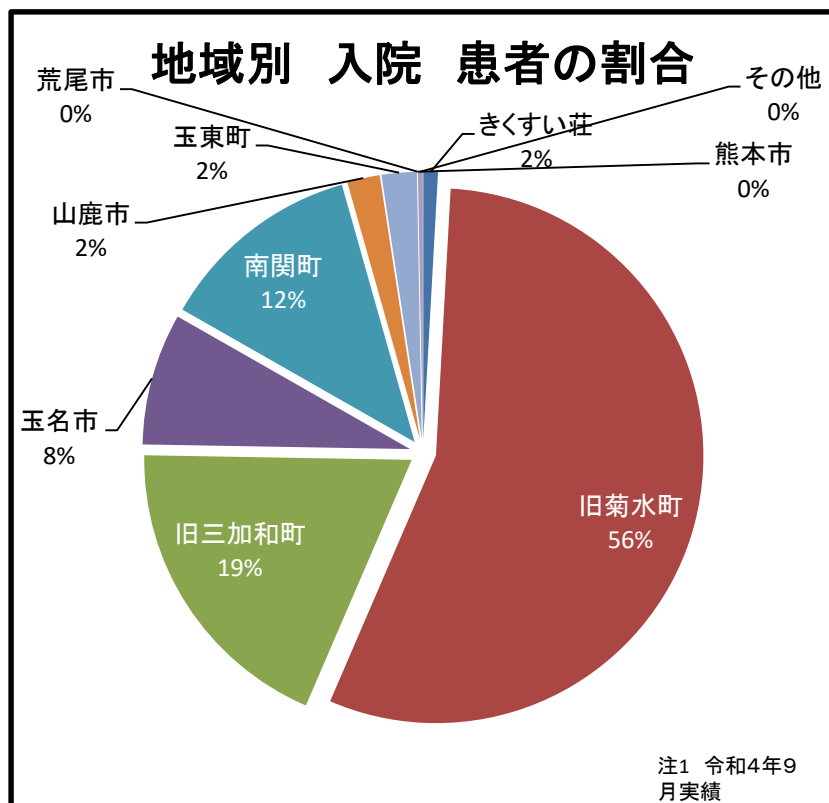
【和水町立病院の現状】

開設者 : 和水町
診療科目 : 内科、外科、整形外科、小児科、脳神経外科、放射線科、リハビリテーション科 7診療科
許可病床数 : 91床 [一般49床、療養42床]
職員数 : 94人 (非常勤医師を除く。)
施設基準等 : 急性期一般入院料5、療養病棟入院基本料1、地域包括ケア入院医療管理料4、救急告示病院等
平均在院日数 : 19日

雇用区分	医師	看護師	医療技術員	事務職	ケアマネ	MSW	労務員	合計
正職員	4人	46人	13人	8人	3人	1人	0人	75人
非常勤	11人	5人	0人	7人	1人	0人	6人	30人
合計	15人	51人	13人	15人	4人	1人	6人	105人

1 現状と課題

【和水町立病院の現状】

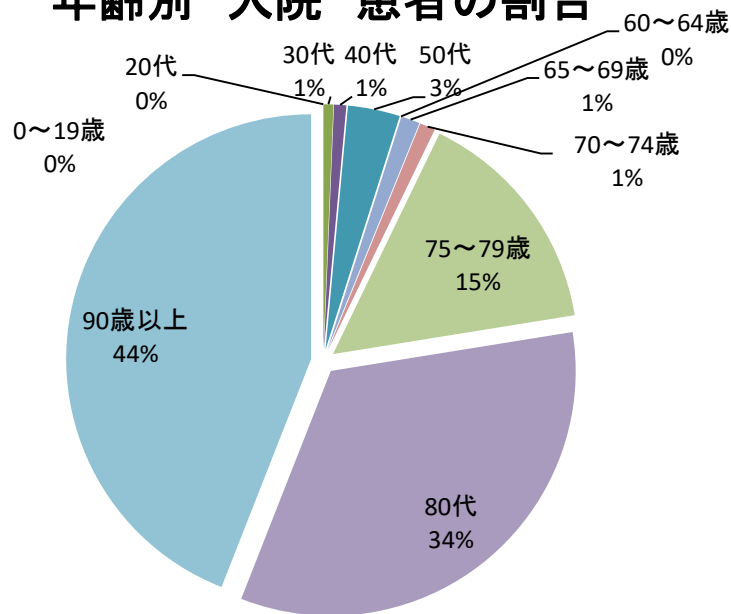


- ・入院患者は、77%が町内の患者(うち56%は菊水地区の患者)
- ・外来患者は、87%が町内の患者(うち73%は菊水地区の患者)

1 現状と課題

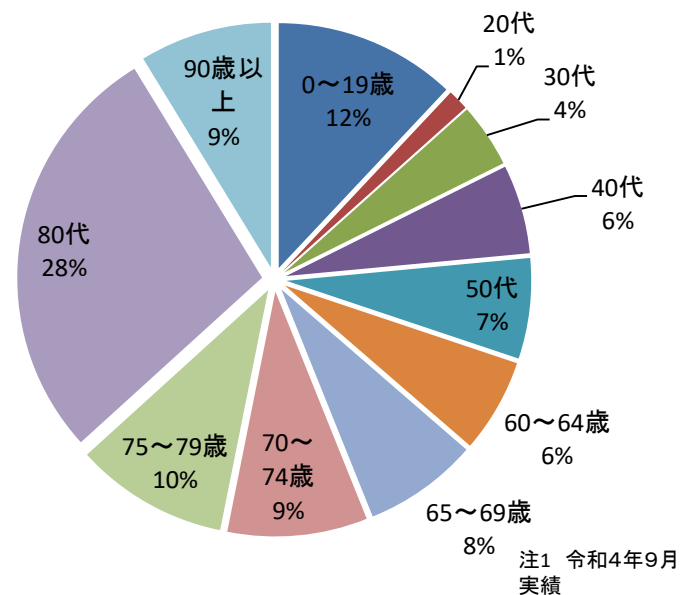
【和水町立病院の現状】

年齢別 入院 患者の割合



注1 令和4年9月
実績

年齢別 外来 患者の割合



注1 令和4年9月
実績

- ・入院患者は、95%が65歳以上の患者（うち44%は90歳以上）
- ・外来患者は、64%が65歳以上の患者

1 現状と課題

【和水町立病院の現状】

①	和水町、特に旧菊水地区の高齢者を中心とした住民の診療を行っている。
②	病院の機能としては、回復期および慢性期の患者対応を行っている。
③	軽症から中等症の救急患者対応を行っている。
④	訪問診療、訪問看護、居宅介護支援、健診を行っている。
⑤	人口の減少とともに、外来患者、入院患者とも減少している。
⑥	病棟は昭和60年に改築、外来棟は平成11年に改築しており、老朽化が進んでいる。
⑦	患者の減少とともに、経常収支も悪化している。

1 現状と課題

【和水町立病院の課題】

- | | |
|---|--|
| ① | 今後も人口は高齢化により減少する予想であり、コロナ収束後もコロナ前のような患者の獲得は厳しいと思われる。 |
| ② | 医師、看護師などの人員の確保が困難になっている。特に、若い世代の職員が少ない。 |
| ③ | 職員の確保ができるとしても、費用が増加するため慎重に雇用する必要がある。 |
| ④ | 施設の老朽化とともに修繕費が増加して経営を圧迫している。 |

2 今後の方針

【地域において今後担うべき役割】

●地域における病院の役割を明確化し地域包括ケアシステムを充実させる。

- ①地域に根差した「かかりつけ医」としての一次医療の提供
- ②回復期及び慢性期患者への医療の提供
- ③在宅医療を促進するために、行政、介護福祉施設等と連携・協力した地域包括ケア病床を有する中心的な病院としての役割
- ④二次救急医療に係る病院群輪番制病院としての役割
- ⑤住民健診等の健診機関としての役割
- ⑥糖尿病委員会等、住民の健康づくりへの啓発事業を行い、住民へ「医療と健康」への意識を啓発する役割
- ⑦新興感染症の発生時に地域医療を守る役割

2 今後の方針

【新興感染症対策】

1 感染症拡大時の取組

- ①入院受入医療機関として回復期病床49床のうち25床を新興感染症対策としてゾーニングを行い、感染病床を設置する。
- ②中等症以下の患者の受け皿として、有明圏域の医療機関と連携強化し体制の構築に努める。
- ③保健所、関係機関と連携し、行政検査や外来での検査、発熱外来の開設等の体制構築に努める。

2 感染症拡大時に備えた平時からの取組

- ①感染症の病床に転用しやすいようなゾーニング、外からの出入りや検査機器への導線の確保、感染防護具等の備蓄を行い、また、定期的に感染マニュアルの点検・検証・見直しを行う。
- ②感染委員会を中心に医療従事者の感染防止に対する意識向上を図る研修を定期的に実施する。

2 今後の方針

【医師働き方改革における医師と看護師の確保対策】

1 医師の確保

- ①大学医学部や近隣の中核病院に協力を求め確保に努める

2 看護師の確保対策

- ①看護学校の実習を積極的に受入れ，充実した休暇制度等の働きやすい環境をアピールすることなどを通して，当院に将来勤務する動機づくりに努める。
- ②勤務環境改善を着実に進めるとともに，資格取得，研修などにも積極的に取り組める環境の構築。

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【① 4 機能ごとの病床のあり方 その1】

単位：床

病床機能	2022年(令和4年)	2025年(令和7年)	備考
高度急性期			
急性期			
回復期	49床	49床	
慢性期	42床	42床	
その他			
合 計	91床	91床	

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【① 4 機能ごとの病床のあり方 その2】

当院の果たすべき役割

- ◆ 当院は今後も回復期と慢性期のそれぞれの機能を担っていく。
- ◆ 回復期機能では地域包括ケア病床を活用し、リハビリや在宅復帰の支援だけでなく、在宅患者さんの急な体調の悪化時や軽度の急性期疾患の直接受け入れ、レスパイト入院など積極的に行っていく。その機能を充分発揮できる様、医療施設・介護施設とのますます密な連携を推進する。
- ◆ 慢性期機能では当院の入院患者90%以上が高齢者であり、70%が町民の患者である。町民のニーズに対応するため、町民に寄り添った医療機関として質の高い慢性期を推進する。

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【②診療科の見直し】

	現時点 (2018年3月時点)	2025年	理由・方策
維持	内科、外科、整形外科、 小児科、脳神経外科、 放射科、リハビリテーション科	現在の診療科を維持	地域の一次医療としての 役割を保つため
新設			
廃止			
変更・統合			

3 具体的な計画

(2) 数値目標

	現時点(2018年3月時点)	2025年
①病床稼働率	59.1%	70%
②紹介率	—	—
③逆紹介率	—	—

3 具体的な計画

(3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

【取組みと課題】

- 看護職員数が足りていないため、稼働率が低迷している。看護職員の確保に注力したい。
- リハビリスタッフがPTだけと偏っていたが、令和5年度にOTとSTを新たに採用した。それに伴い、回復期の質を高め、患者獲得に努めていく。
- 患者数に応じて必要があればベッド数の見直しの検討を行う。